

あさおの町会・自治会 vol.39

麻生区にある125の町会・自治会をご紹介します。



虹ヶ丘3丁目町内会 会長 比嘉 輝雄

虹ヶ丘3丁目町内会は虹ヶ丘地区の南端に位置し、歩けば5分で一回りできるほど小さな町内会です。町内会のある地域は昭和40年代に現在の虹ヶ丘全域と横浜市的美しが丘西、荇子田、すすき野、もみの木台を含む広域で行われた区画整理で生まれた住宅地の一部で、現在の町名になる前は早野の一部でした。昭和55年に東急電鉄の建売住宅19戸の分譲が行われると、それ以前からあった住宅と合わせて現在の町の姿がほぼ形成されました。分譲時にはまだわずかに残っていた空地にも、その後住宅が建てられるなどして今に至っています。住宅は全部で33戸、戸建てばかりで集合住宅はありません。

分譲後ほどなく町内会が結成されました。今はなくなってしまいましたが、当時コンビニがなくて(今クリニックが

あるところ)で、その店主さんらの主導によるものです。ちなみに店主さんは虹ヶ丘小学校のPTA会長もされてきました。住民はその後多少の入れ替わりはありましたが、ほとんどは町内会結成当時のままです。当時は大勢いた子どもたちも巣立ってしまい、今では一世代だけの家が多くなりました。

町の一角に虹ヶ丘南公園があります。最近、ブランコやすべり台などの遊具が一新されました。春から夏にかけては雑草が茂り、秋から冬にかけては落



虹ヶ丘南公園

ち葉でいっぱいになるので、住民が協力してほぼ毎月1回清掃活動をしています。町内会では住民が少ないこともあり特別な行事を行うことがなく、公園清掃は住民が集う数少ない機会です。しかし住民の高齢化が進んで活動できる人が減りつつあるので、小さい公園とはいえいつも綺麗に保つのはなかなか大変です。今はまだ何とか続けていますが、いずれは活動が難しくなるかもしれません。

町内会の役員は会長、副会長、会計です。基本的には家の並び順で就任し1年交代です。消火班を含めて5班からなる自主防災組織があります。その他にも廃棄物減量指導員、路上違反広告物除却推進協力員がいて、これらの要員を数少ない住民の中から確保するのはなかなか大変です。

町の西側の早野聖地公園は道路より高い土手になっていて、この上は格好の散歩コースになっています。春には桜並木になります。町の東側は道路を隔てて横浜市です。日常の買い物の多くは横浜市内の店を利用しています。地下鉄の延伸が実現すれば新百合ヶ丘がより身近になるので、買い物はもとより麻生図書館の利用もしやすくなるのが楽しみです。さで一体いつになるでしょうか。



隣接する早野聖地公園の桜並木

扶桑町会 会長 野竹 康夫

私たちの町は多摩美1丁目1～6番で、読売ランド前駅から北西に向かった小高い丘陵地帯にあり、東側及び南側は多摩区との境界線にあたります。駅からは3～6分の至近距離にあり、かつ多摩美の丘陵から駅に向かうメインの大変交通量の多い通りがあります。昭和2年に小田急線が敷かれた時から駅(当時は西生田駅)があり、昭和30年代から宅地開発が行われ、当初は比較的広い戸建てが多かったのですが、代が替わるにつれ、区画も小さくなり、かつ集合住宅が増えてきており、現在は戸建てが70戸、集合住宅が90戸を超えてきました。駅からよみうりランドや農業技術支援センターに向かう多摩自然遊歩道があり、多摩美の森では環境整備とともに植樹

や栽培、収穫などのふれあい活動が活発に行われ、自然公園では子どもたちの自然体験の場として活用されています。

さて町会活動ですが集合住宅の方の参加が限られていることと、戸建てでは高齢者が多く自前での活動は限られておりますが、最近若返りが進んできており、小さい子どもさんの声も聞かれるようになってきております。そういう中で最大のイベントである盆踊り大会は、多摩美の八つの町会が合同で開催しており、自然公園の中で樽を組み、子供神輿から始まり、踊り同好会・子供太鼓同好会の協賛を得ながら行われ、手作りの夜店・来賓の参加などが花を添える大変な盛り上がりのある催しになっており、多数の参加があります。



盆踊り大会

町会活動としては6名の役員と民生委員で構成され(最近では若手の役員も増え)、区の会合呼びかけには積極的に参加し、年数回の町会役員会やメールによる情報交換を行っており、また住民との情報共有のために、掲示板の活用と年4回程度の町会ニュースの発行及び回覧を行っております。不定期ではありますが、役員で防犯やゴミの出し方、道路の

傷みなどがないかなどの視点で町内の巡回を行っております。また町内には老人福祉の施設があり、交流の場としての参加も呼び掛けています。

さらに当町会の実態に沿うように自然災害・火災・犯罪・交通事故を防ぐ活動に注力しており、防犯カメラ2基を今春設置する運びとなりました。三叉路の視界が良くないことから、カーブミラーも設置いただけることになりました。コロナ禍で活動が停滞する中ですが、この時期にこそ当町会としてかつ近隣の町会と手を携え、想定される、地震・火災・土砂災害・雪害などに備えた防災計画を練り直し、特に共助・自助の視点でお互いに顔の見える体制作りを鋭意努めております。

あさお区内地域紹介

■岡上のどんど焼き

岡上町内会 会長 宮野 敏男
岡上では「どんど焼き」のことを「塞の神」ともいっています。「塞の神(せいのかみ、せえのかみ)」は、旧くは邪霊の侵入を阻止する神、行人を守る道路の神(道祖神)であり、村内・村境に置かれたものでした。

しかし、ここでいう「塞の神」(どんど焼き)は、正月飾りやだるまなどを燃やすために、竹・茅・笹・木の枝・藤つるなどを用いて作られる塔状のものです。

岡上のどんど焼きは従来から3ヶ所で行われてきて、今も続いています。谷戸地区は谷戸の田んぼ、上・下地区は岡上神社下の空地で毎年1月14日の夕



上・下地区 (令和2年1月)

刻に火がつけられます(谷戸は4時、上・下地区は5時)。川井田地



どんど焼き



川井田地区 (令和2年1月)

区は一時中断し、和光大学の力添えで復活を果たしましたが、14日前後の土日の3時に火がつけられます(令和3年は14日午後3時から)。

昔は子どもたちがお正月の飾り物などを集めてお小遣いをもらう小規模なものでしたが、現在は大人が中心となって立ち上げる大掛かりな仕掛けになり、岡上の年中行事の一つになっています。

今年は新型コロナウィルスの感染拡大の影響で、3地区とも規模を縮小し、子どもたちへのお菓子の配布は控え、お正月のお飾りやお札を燃やすだけのものとなりました。

■真福寺町内会のどんど焼き

真福寺町内会 会長 井上 俊夫
当町内会のどんど焼き(塞の神・せいのかみ)は、旧来から正月飾り、破魔矢、達磨などを持ち寄り、積み上げて燃やし、榎の小枝にさした団子を焼い



昨年度のどんど焼き

て食すことにより、これまでの1年間が無事に済んだことへの感謝と、これからの1年が無病息災であるよう祈

願する年中行事として1月14日に行われてきました。

昔は真福寺川の合流部にあたる、上の谷戸と白山谷戸の交わる土手で行われていましたが、住宅化が進み途絶えていました。近年は、白山神社前の田んぼで実施していましたが、菅早野線の開通や宅地化により、平成30年から真福寺小学校の校庭を借りて実施しています。それに伴い、近隣の自治会にも声を掛けさせていただき、参加者が増えました。団子はPTAの協力をいただき約1500個を作り、子どもたちに無料配布しています。昨年は、校庭に鉄板を敷き大小二つ作り、大きい方は従来通りに組み立て、小さい方は骨組みのみ作り、寺子屋の体験活動として児童が組み付けを行いました。今年はコロナ感染防止のため3密を避け、団子作りや子どもたちへの配布も取り止め、お札やダルマを積み上げて炊き上げるだけの「簡素化どんど焼き」としました。